

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



名古屋大学 総長  
杉山 直

## 総長挨拶

### Greeting from President Sugiyama

名古屋大学全学同窓会 (NUAL) 会員の皆様、名古屋大学総長の杉山 <sup>なおし</sup>直です。私は松尾清一前総長 (現東海国立大学機構長) の後をうけ、2022年4月から第15代総長に就任いたしました。NUALの会員の皆様、とりわけ豊田章一郎 NUAL 名誉会長様と柴田昌治 NUAL 会長様におかれましては、常日頃から名古屋大学に対して深いご理解と多大なご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

これまで名古屋大学は教育、研究、国際交流、社会貢献の面で挑戦的な取り組みを展開し、数々の素晴らしい成果を挙げてまいりました。教育においては、2000年に制定された名古屋大学学術憲章に掲げられた「**勇氣ある知識人**」の育成を中心に据えて、社会のあらゆる分野で活躍する人材を同窓生として輩出してまいりました。研究に関しては、創立時よりの自由闊達な学風の下、世界をリードする研究成果を次々と生み出し、ノーベル賞を代表とする高い国際評価をいただいているところです。国際交流ではアジア諸国を中心にとりわけ法整備支援や農学の分野で大きな貢献を成し遂げ、また、世界トップランクの7大学との間にジョイント・ディグリープログラムも設置いたしました。社会連携については、学術研究・産学官連携推進本部が司令塔となり、急激な進展を遂げているところです。

2018年には、文部科学省より世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学として指定国立大学法人の指定を受け、2020年4月からは岐阜大学と法人統合を果たし東海国立大学機構を発足させました。本法人は、世界有数の経済圏である東海地域の未来を創るのにふさわしい新たな大学モデルの構築を目指しています。

取り巻く環境や体制は変わりながらも、名古屋大学はこれまでと同様、いや、これまで以上に活発に教育研究活動を進め、世界屈指の研究大学となることを目指して邁進しています。そのための鍵となるが、NUALのこれまで以上に活発な同窓会活動の展開です。私は、同窓会は大学の持っている最も重要な財産だと思っています。総長在任中に、名古屋大学を在校生、教職員、そして何より同窓生の皆さんがこれまで以上に誇りに思えるように、今一段の高みへと到達させるべく構成員とともに全力を尽くす所存です。NUAL会員の皆様におかれましては、これまで以上にご支援とご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

## Contents

杉山総長挨拶 ..... 1 Greeting from President Sugiyama	活躍する会員たち ..... 8 NUAL People in Action
特集1 杉山総長インタビュー ..... 2 Interview with President Sugiyama	特集4 コロナ禍の中での第5回名古屋大学同窓会 サミットの開催 ..... 12 Holding the 5 <sup>th</sup> Summit Meeting of NUAL Associations during the Covid-19 pandemic
特集2 名古屋大学全学同窓会設立20周年を迎えて ..... 6 Celebrating the 20 <sup>th</sup> anniversary of the Nagoya University Alumni Association	同窓会ニュース ..... 13 NUAL News
特集3 名古屋大学全学同窓会講演会 (ウェビナー) 報告 ..... 7 Report on the NUAL 2022 Lecture (webinar)	事務局からのお知らせ ..... 16 From the NUAL Office

## 杉山総長インタビュー

### Interview with President Sugiyama

2022年4月、名古屋大学総長に杉山先生が就任されました。就任約3か月でのご心境、任期中にやりたいことや同窓会への期待などをお話いただきました。

In April 2022, Professor Sugiyama took up the role of President of Nagoya University. Three months later, we asked for his thoughts, what he hopes to achieve in his term, and his expectations for NUAL.



#### 杉山 直 総長

1961年 ドイツ生まれ  
 1984年 早稲田大学工学部物理学科卒業  
 1986年 早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻博士前期課程修了  
 1989年 広島大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程修了  
 1991年 東京大学理学部助手  
 1996年 京都大学大学院理学研究科助教授  
 2000年 国立天文台理論天文学研究系教授  
 2006年 名古屋大学大学院理学研究科教授  
 2007年 東京大学数物連携宇宙研究機構主任研究員（兼任）  
 2017年 名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長  
 2019年 名古屋大学理事・副総長（統括・総合調整担当）  
 2020年 東海国立大学機構理事（研究・国際担当）  
 名古屋大学副総長（筆頭、統括・研究担当）  
 2022年 東海国立大学機構大学総括理事・副機構長  
 名古屋大学総長

専 門：理論天文学 / 天体物理学、宇宙論、観測的宇宙論、宇宙マイクロ波背景放射、宇宙の大規模構造、宇宙の熱史

（広報委員）はじめに、杉山総長から同窓生に向けて自己紹介をいただけますか？

（杉山総長）縁があって平野先生が総長だった2006年に、国立天文台から名古屋大学に着任しました。宇宙論、天文学、宇宙物理学の理論研究が私の専門分野です。

名古屋大学は、第9代学長である早川先生が日本のスペースサイエンスをリードしていた伝統もあり、非常に強力な宇宙研究のグループがあったので移ることを決心しました。そこでは、宇宙の研究グループに加えて、伝統ある素粒子の研究グループがあり、私としても強力なグループを構築することができました。さらに、2008年度には理学研究科素粒子宇宙物理学専攻と太陽地球環境研究所（現在の宇宙地球環境研究所）の宇宙と素粒子のグループが中心のグローバル COE『宇宙基礎原理の探究』も採択され、40代でリーダーを務めさせていただきました。これによって、名古屋大学内の近隣の研究グループと密接に研究を行うようになり、他のグローバル COE 拠点も含めて学内での人脈も築くことができました。同じタイミ

ングで、小林先生、益川先生のノーベル賞受賞があり、素粒子宇宙起源研究機構（KMI）の設置をお手伝いしたことも良い経験となっています。

濱口先生が総長の時に、将来的に大学の中核を担うと想定される人が集まって将来像等を検討する総長調査戦略室に入りました。そこでは、感覚ではなくしっかりとエビデンス（根拠）に基づいた大学経営の重要性を学びました。そのメンバーが中心になり、私がコーディネーターとして採択されたのが博士課程リーディングプログラム「PhD プロフェッショナル登龍門」です。これは当初年間予算4億円で、大学全体から優秀な大学院生を毎年20名程度集めて、社会に通用する人材に育て上げるプログラムです。

PhD 登龍門を運営しながら総長補佐、高等研究院副院長などの立場で大学全体の教育・研究等に関わりつつ、理学部長・理学研究科長を経て、2019年から副総長として、松尾総長の下、当初は総括担当（プロボスト）を、途中からは研究担当も兼ねました。2020年に東海国立大学機構が発足、

当初2年は松尾先生が機構長と名古屋大学総長を兼任されましたが、この春から松尾先生が機構長専任になり、私が総長に指名されました。

個人としては、元々研究者として研究を楽しくやる予定が、グローバル COE や博士課程リーディングプログラムなど部局、さらには大学全体にまたがる教育研究プロジェクトを預かることになり、また同時に調査戦略室で大学全体を見るようになりました。流れに任せて、新しいチャレンジに取り組んでいったところ、いつの間にか総長として名古屋大学を統括する立場になっていた、というのが正直なところではあります。

(広報委員) 総長に就任されて3カ月近くになりますが、現在の心境をお聞かせください。

(杉山総長) 責任の重さを日々痛感しています。特にコロナ禍であり、また紛争など世界の情勢も大きく変わっています。一方で大学のあり方も問われており、今は国際卓越研究大学が取り沙汰されています。これは国が10兆円を基金として用意して運用し、その運用益を「世界と伍する研究大学」として認定した国際卓越研究大学数校に配分するというもので、すでに法律も通りました。国際卓越研究大学に求められる案件には、トップレベルの研究力、経済的な成長、ガバナンス改革があります。ガバナンス改革は外部人事を多く入れた法人総合



インタビューの様子

戦略会議なるものを作り、そこが法人の長を選考し、また法人全体の戦略を考えるということが求められています。この戦略会議は我々の場合であれば、東海国立大学機構に設置されることとなります。経営と教学が分離していますので、他の大学よりは受け入れやすいと考えているところです。

国際卓越研究大学への申請以外にも、やはり大学の顔として様々なことに対応していく必要があります。これまでは大学内部のことを中心に気を配っていただければよかったのですが、各国の大使や企業のトップの方々、さらには国内外の大学学長などに会って連携を深めていったり、記者発表やインタビューなどを通じて大学の考えを学外に広めるなど、新たな仕事は非常に多岐にわたっており、なかなか慣れるまで大変です。慣れてくればもう少し効率的にやれるでしょうけど、現状は無我夢中でできることから一つ一つやっています。ですので、落ち着いて書き物ができるのは土日ということになっています。

(広報委員) 任期中に総長が実現したいことをお聞かせください。

(杉山総長) まず何はさておき、名古屋大学を世界トップレベルの研究大学にするということです。その路線の上に、先程の国際卓越研究大学があると思っています。

研究には役に立つものと役に立たないものがあるわけですが、明確に私は自分の研究は役に立たないと思っていますが、その研究をすることによって知的成果が集積されます。名古屋大学の研究力を高める、研究で世界トップレベルの研究大学になると言った時に、まず知をしっかり集積していく、様々な分野の最先端の知を集積させていくことです。そのことによって人類の知の地平線を拡大することに貢献するのですね。これは、文系・理系を問いません。

次に、その知自体をどうやって価値化するかと考える必要があります。全く役に立たないと思われても、例えば私の例で言えば、宇宙がどう始まったかは、一般の方も面白いと思って

くれます。ですので、一般向けの本を書くとか、講演するというのは価値化するための一つ的手段だと思っています。基礎的な研究はあくまで個人の好奇心に基づいて展開されることが多いわけですが、一方で、税金を使って研究している以上、その成果を社会に何らかの方法で還元することは必須ではないでしょうか。知的成果の価値を高めていく、社会に訴えていくという意味では、広報が重要です。今後は是非とも国内・国際どちらにも訴えられる広報戦略をしっかりと確立していきたいと思っています。

集積された知の中には、社会実装に向かうものも出てきます。特に工学や医学での研究は社会実装が意識されていて、例えば自動運転や天野先生の窒化ガリウム素子などは社会を変えるところまで広がっていく内容だと思っています。しかし、中には面白い成果だけど、見つけた人は何に使うかわからないまま、実は凄い価値が眠っている場合もあります。だから知をどう価値化して社会の変革に役立てていくかは、大学としても最も重要なミッションの一つであると考えています。

関連してさらに加速していきたいと考えているのは学生の起業です。野心があって優秀な学生であれば、自分で会社を興してみることチャレンジしてもらいたいです。学部でのアントレプレナー（起業家）の講義など、起業マインドを熟成するような教育を考えているところであり、名古屋大学ならではの独自性のある技術等があれば、その価値付けが大変高いものになっていくと思います。

全国の総合研究大学の中でも、名古屋大学は自由闊達な学風を大切にしています。多様な人が様々なことを言い合える環境で、分野間の連携が進み新しい分野がそこに生まれてくるような、知の創出をしたいと思っています。自由闊達という点では、理学部物理学科では、教員を先生と呼ばず研究者としては若い人でも対等である、という伝統があります。この伝統のもと、益川先生、小林先生のノーベル賞の成果も生まれています。自由闊達に、年齢や身分によらず研究者として対等に言いたいことを言い合える、そういういわば梁山泊のような風土を目指したい。戦後すぐの名古屋大学がまさにそのような状況だと思っています。創立80年を過ぎて、名古屋大学も伝統の名のもと、少し窮屈になってきているように感じています。今一度、原点に立ち返って、学問の梁山泊となること、これが私の夢です。

そのためには、構成員の皆さんが将来に希望を持てる、また、名古屋大学の一員であることに誇りと喜びを見出せるような、そのような名古屋大学でなければなりません。自分がその一員であるという参加意識があり、そこでは新しいことが次々と起こり、ワクワクドキドキが絶えない、そんな大学ですよ。

私自身、今ちょっとワクワクしているのが、東海プラットフォーム棟（仮称）の建設です。山手通りの名古屋大学駅から図書館に向けて、半地下に掘り下げて広大なスペースを確保し、学生、教職員、同窓生さらに市民が集う場所を作り出すという位置付けです。開かれた知を見せる場、大学として開かれ



東海プラットフォーム棟（仮称） 完成予想図

た教育の場をイメージしているので、是非とも同窓会の方々にも足を運んでいただきたいです。2024年中には完成を目指しています。ここ数年のうちに、景観が大きく変わるのでノスタルジーを感じる人は残念に思うかもしれませんが、完成が今から楽しみでなりません。

最後になりますが、東海国立大学機構として、岐阜大とどう連携していくか、2つの大学だけではなく更に新しい大学を付け加えていくのか、ということが私の任期中の大きな課題になると思います。松尾機構長が中心になることでもありますが、しっかりとサポートしていく所存です。

(広報委員) 総長から同窓生、全学同窓会に期待することがありましたらお願いします。

(杉山総長) 大学は同窓生に支えられていると強く思います。アメリカの大学を見ても、やはり同窓生の力は凄くて、愛校心を上手に育てています。そこではスポーツを本当にうまく利用していますね。私はカリフォルニア大学のバークレー校に行っていましたが、アメリカンフットボールのライバルはスタンフォード大学で、対抗戦になると愛校心から町中が騒然となります。名古屋大学ではなかなかスポーツというわけにはいきませんが、同窓生・在学生の皆さんが本当に誇りに思える大学となるべく、研究、教育そして社会連携と邁進していきます。

名古屋大学の一番強いサポーターは同窓会であり、同窓会の会員、卒業生だと思っています。そこが名古屋大学の次の世代を支えてくれます。在学中の学生や、これから入学してくる学生たちを同窓会の力でサポート、援助いただけたらと思います。援助の中に寄附がありますが、それだけではなく、社会の多種多様な場で活躍されていることが大変大きなサポートになっています。また名古屋大学全学同窓会の素晴らしい特徴として、海外支部の存在があります。アジアを中心に各国に作られたネットワークは、名古屋大学の国際活動を強力にサポートいただく存在だと感謝しております。名古屋大学と同窓



総長室にて

会が連携して、名古屋大学の学生や大学全体を強めていくことに力を貸していただきたいです。

強固な同窓会組織があるのは大学の強みですが、そのためにはこちらにも責任があります。先にも述べたように、在学中に名古屋大学のことを好きになってもらい、名古屋大学の学生であることを誇りに思ってもらわなければなりません。誇りに思ってもらえる大学へと価値を上げていくことが、私の使命だと思っています。一方で、是非とも同窓生の皆さんにおかれましても、それぞれの現場で名古屋大学の評判を上げていただき、周囲の方のお子さんを名古屋大学に導いていただくこと、また、名古屋大学卒業生を是非ともリクルートして受け入れていっていただきたいと希望します。同窓生の皆さんに期待することは、名古屋大学を愛し続けて、名古屋大学のために広い意味で働いていただくということです。

同窓生、同窓会は名古屋大学の財産です。その基本財産を我々はきちんと把握できているか問われています。例えばアメリカの大学では、膨大な人員を割いて同窓生の大半と連絡が取れるような体制を作り上げているとのこと。そこではSNSも大いに活用しているとのこと。名古屋大学として、卒業生の連絡先の把握を急いでいるところです。全学同窓会も組織率が高まるよう是非よろしく願います。大いに期待しています。これからも全学同窓会におかれましては物心両面で、名古屋大学へのサポート、どうかよろしく願います。

# 名古屋大学全学同窓会設立20周年を迎えて

## Celebrating the 20<sup>th</sup> anniversary of the Nagoya University Alumni Association

名古屋大学全学同窓会  
代表幹事  
木村 彰吾



名古屋大学全学同窓会は、2022年に創立20周年を迎えることができました。今日に至るまで、全学同窓会の活動に関わって下さった方々に、深い敬意と感謝の念を捧げます。一昨年からのコロナ禍のもと感染防止の観点から同窓会の活動も制限を余儀なくされる中での設立20周年です。そのため、大勢の会員が集まるような周年行事を執り行うことは容易ではなく、ホームカミングデイの「名古屋大学の集い」における名古屋フィルハーモニー交響楽団と医学部生の沢田蒼梧さんが初共演するコンサートを協賛することで周年を祝う予定です。

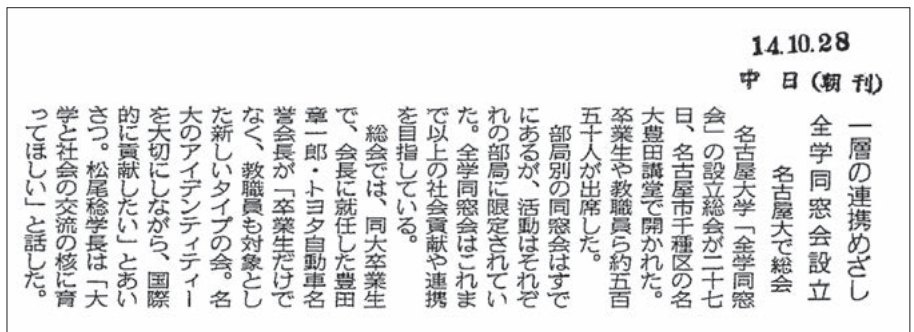
さて、この機会に、全学同窓会の設立について『名古屋大学全学同窓会 News Letter』の創刊号(2002年9月発行)を読み返してみると、「大学全体の新しいタイプの同窓会の必要性」が強調され、「大学と社会を結ぶ必須の組織」として全学同窓会を設置することが記述されています。そして設立の理念として以下のことが記されています。

- 部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供する
- 名古屋大学全体の活動に関する情報を発信する
- 部局同窓会などと協力し、大学と地域

社会や産業界との協力の核となる

- 名古屋大学が社会に開かれた大学になるよう大学と連携協力する
- 全学的見地から学術研究、教育および学生の支援を行う
- 名古屋大学の声価を高め優秀な人材を集めるよう大学と連携協力する
- 留学生を含む同窓生などの活動を把握する
- 大学と連携して情報交換と人的交流を促進する拠点を形成する
- 各部局同窓会の相互の連携協力をはかる
- 部局を超えた横断的な同窓会活動や組織造りを支援する

全学同窓会役員をはじめ会員の皆様のご尽力によって、このような理念は様々な取組で実現されてきました。いくつか列挙しますと、名古屋大学支援事業(全学同窓会の予算から同窓会の活動理念に沿った名大の学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事などを支援する、寄附講義を開設する事業)、名古屋大学カードの発行、ホームカミングデイの支援、全学同窓会講演会、名古屋大学全学同窓会 News Letter の発行などです。(これらの活動の詳細については、『名古屋大学全学同窓会 News Letter』No.18(2012年10月発行)の特集「名古屋大学全学同窓会設立10周年の経緯」をご



平成14年全学同窓会設立総会・記念講演会の様子



平成22年ホームカミングデイでの豊田名誉会長の挨拶

参照ください) また、海外にも支部がいくつか設立され、今年度はアジア以外で初めての海外支部となる米国支部が設立されます。

国立大学の法人化が全学同窓会の設立契機の1つとされていますが、2022年は第4期中期目標・中期計画が始まり、優

れた大学のみを対象に国が10兆円ファンドの運用益で支援する「国際卓越研究大学」制度も導入されます。設立20周年を迎え、名古屋大学を取り巻く状況は著しく変化しつつあり、それに合わせて全学同窓会の理念を実現する事業を進めていくことの重要性を思う次第です。

### 特集3

## 名古屋大学全学同窓会講演会（ウェビナー）報告 「AIとスパコンで医療はどう変わるのか？」 （講師：森 健策 情報基盤センター長・情報学研究科教授） *Report on the NUAL 2022 Lecture (webinar)*

名古屋大学全学同窓会代表幹事

木村 彰吾

名古屋大学全学同窓会講演会が令和4年2月4日（金）に、昨年に引き続きウェビナー形式で開催されました。ウェビナーというスタイルもコロナ禍において定着したこともあり、特段の問題もなく開催することができました。今回は講師として名古屋大学大学院情報学研究科教授の森健策氏をお招きし「AIとスパコンで医療はどう変わるのか？」というテーマでご講演をいただきました。大変興味深いあるいは関心の高いテーマということもあり、当日の参加者は300名を超え、名古屋大学全学同窓会会員のみならず、150名を超える学会会員の皆様にも参加いただきました。

慣例によりまして、代表幹事の挨拶、学会の小堀康生事務局長の挨拶、森先生の紹介に続いて、森先生から画面共有により資料を提示しての講演となりました。

講演のタイトルにあるように、AIの紹介から始まり医療AIの説明、そして医療機器として承認されたAI診断装置の例として大腸内視鏡AIについて説明されました。これは、大腸内視鏡で撮影された画像を医師の診断プロセス（病変の有無、腫瘍か否か、悪性か否か、手術の選択）に基づき、大量の画像を機械学習し、医師の診断を支援するというものです。その効果は非常に大きく、非専門医であっても専門医に劣らぬ診断ができるようです。講演では実際の画像を提示しながらお話をされたので、具体的に理解できたのではないのでしょうか。

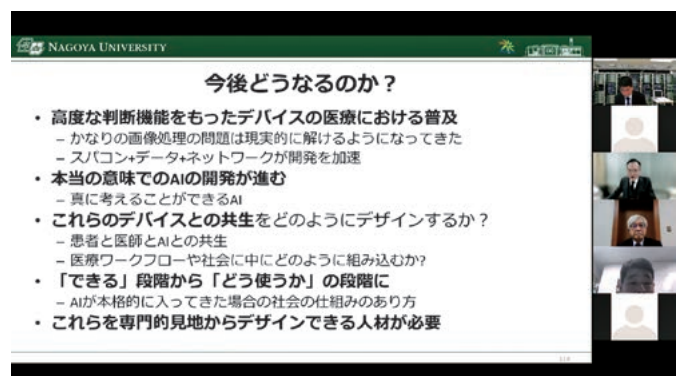
このような機械学習、AI研究を推進するには大量GPUマシンが不可欠だということから、スパコンのお話に移りました。名古屋大学のスパコン「不老」を紹介いただき、スパコンに

よって新型コロナによる肺炎かどうか診断する画像処理とそれに続く所見文の作成に至るプロセスを紹介されました。

そしてスパコンの性能を活かしたAIのある医療についてお話をされました。日常生活ではウェアラブルデバイスで健康データを収集、医療機関では高度診断治療支援や自律型アシスタントロボットなどが紹介されました。最後に今後は高度な判断機能を持ったデバイスがさらに普及することとなり、これらのデバイスとの共生を考えなくてはならないと指摘されました。

講演後にはいくつかの質問があり、限られた時間ではありましたが森先生からご回答いただきました。

終了後のウェブによるアンケートでは、参加者の過半数から回答をいただきました。自由記載欄にも感想をたくさんご記入いただき、講演が大変好評であったと受け止めております。無事に開催できたことに感謝申し上げるとともに、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



講演会ウェビナーの様子

## 活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第38回は、情報文化学部を卒業し大学院情報科学研究科を修了後、IT エンジニアとしてご活躍の服部洋明さん、農学部を卒業後、再生可能エネルギーを活かしたまちづくりでご活躍の小西千晶さんにお話いただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. For this 38<sup>th</sup> instalment, we spoke to Hiroaki Hattori, graduate of the School of Informatics and Sciences and the Graduate School of Information and Science, who is currently working as an IT engineer. We also spoke to Chiaki Konishi, an alumna of the School of Agricultural Sciences whose work focuses on how urban planning can take advantage of sustainable energy sources.

はっとり ひろあき  
服部 洋明さん



### ■略歴

- 1991年 愛知県名古屋市生まれ
- 2015年 名古屋大学情報文化学部社会システム情報学科（現 情報学部人間・社会情報学科）卒業
- 2017年 名古屋大学大学院情報科学研究科社会システム情報学専攻（現 情報学研究科社会情報学専攻）修了
- 2017年 株式会社 NTT データ 入社
- 現在 株式会社 NTT データ 郵政・政策金融事業部次世代統括部デジタルサービス開発担当 主任

### 学生時代について

私は学生時代、社会情報学を学び、サークルはテニスサークル名大 JOY に所属していました。社会情報学は、ICT を社会にどのように適応するかをテーマとしています。そのため、アプリケーションの開発を行っていましたが、情報工学で取り上げられるアルゴリズムの最適化のような研究とは異なります。私は、データを二次利用可能な形で公開することで、そのデータの活用により地域活性化を目指すオープンデータの推進をテーマに研究を行っていました。研究では、オープンデータを活用したアプリケーションを構想し、JavaScript を主として Web エンジンで開発、ハイブリッドアプリケーションの特徴と活かして iOS、AndroidOS のアプリを作成し、その活用効果を測ったりしました。また、その開発スキルを伸ばすために、アルバイトでのスマホアプリの作成、ハッカソンの参加、アプリコンテストへの応募等を通し、フロントエンドエンジニアとして、エンジニアの道を歩み始めました。

### NTT データという SIer で働くということ

NTT データの業種は SIer と呼ばれており、System Integrater の略です。SIer は特に IT の技術要素に縛りをつけず、お客様のシステムをフルセットで構築します。そのため、アプリケーションを作成するプログラミングだけでなく、サーバ、ネットワーク、データベース等の構築といった全般的なスキルが必要です。さらに SIer はプロジェクトマネジメントが主たる仕事となります。指示側が薄っぺらい知識ではメンバーも動かないので、どの領域についてもメンバーに語れるようになっている必要があります。



アプリコンテスト入賞時総長室にて



システム開発は規模にもよりますが、私の周りでは、短いもので3ヶ月、長いものは2~3年、多くは1年程度の期間で1つのシステムを作ります。システムの構想から始まり、設計、構築、試験、リリースが基本的な工程です。私は、入社すると学生時代から想像されるフロントエンドエンジニアとは異なるバックエンドエンジニアとしてアサインされました。そこから、およそ毎年1システムのペースで開発を行いましたが、システム毎に機能・非機能面でそれぞれ色があり、全く異なる特徴があることがシステム開発における深みであり、面白いところです。開発にあたっては、アプリケーションに特化した者、サーバサイドに特化した者、ネットワーク設計に特化した者など、様々なメンバーをアサインします。近年では、オフショア開発が主流になってきていることもあり、私のシステムも中国にあるNTTデータグループに一部をお願いしています。NTTデータは、ITサービス企業として世界でもトップ10に入るほどグローバル化に力を入れており、世界にグループ企業が存在しています。今後もさらに、グローバル化の流れが強くなるでしょう。



中国出張時、兵馬俑にて

## IT エンジニアとして生きていくこと

どの業界も日々進化していきますが、ITは進化のスピードが特に早いかと思います。アプリケーションレイヤーではよりスタイリッシュでパワフルなライブラリが、サーバレイヤーではより安定し、かつ高速に処理する仕組みがいくつもリリースされるため、IT エンジニアとして生きていくにはこのスピードについていく必要があります。そして、世の中にローンチされる最新技術の中でどれがベストか常に市場を探っていなければいけません。

それに並行して、IT 業界は技術コミュニティの活動も盛んですから、その中でスキルを切磋琢磨します。プログラミングの仕方、ライブラリの活用、ローンチされた新サービスの考察といった多種多様なアプローチが存在し、それらをエンジニア同士で投げかける活動です。COVID-19の影響もありますが、その前から大人数にむけてオンライン配信も同時に行ってきたため、引き続きオンライン配信を用いて、日々技術が進化する中で自分のプロダクトにどのようなアプローチを取るかを共有する場が非常に多いです。私も、クラウド、CI/CDや自動化といったコミュニティ、カンファレンスで登壇しています。IT 業界における技術力はプログラミングスキルであったり、サーバ知識と捉えられることが多いです。現在の最新技術が5年後や10年後には過去の技術になるこの業界では、日々その研鑽を欠かすことができません。



カンファレンスへの登壇風景

こにし ちあき  
小西 千晶さん



#### ■略歴

1990年：名古屋大学農学部卒

1990年：(株)東芝入社。自治体向け環境製品の設計、エンジニアリング、営業を経て2011年にスマートコミュニティ部門へ希望異動。再生可能エネルギー導入による地域産業振興にやり甲斐を見出し天職と感じるように。

2018年：会社の事業再編で天職の継続が危うくなり、積水化学工業(株)に転職。地域資源の地域活用の一環で、可燃廃棄物のエタノール化事業推進PJに参画。

2021年：森とまちコンサルタント(株)を設立。やってきたことをひっくりめ、プラス新しい分野も加えつつ、やりたかった仕事に向き合う日々を送っています。

仕事の傍ら MBA (London Univ.)、気象予報士、公害防止管理者水質I種、監理技術者(電気・管)など取得。休日はオーケストラや室内楽、業界イベントなどでバイオリンを弾いています(学生時代は名大オケ、現在はOBの弦楽合奏と東芝フィルハーモニー管弦楽団(コンサートミストレス)にて活動)。

同い年の主人(名大物理卒、半導体関係)と高校生の娘、黒柴一匹と東京都大田区在住。

#### はじめに

仕事の対象が製品→事業→まちづくりと広がるにつれ、お客さんに必要なものを会社が扱っていない場面が増えてきました。世の中にソリューションがあるのに応えられないもどかしさが年々大きくなり、限界に達した昨年の春。長年なんの疑問も持たなかった「会社員」の立場が自分の“前提”になっていたことにはたと気づき、そうか!会社の枠を外れたら何でも出来ると思った途端、目の前がパッと開けました。現在、世界的な再生可能エネルギー導入の加速化や脱炭素施策の隆盛、国内での地域創生推進の後押しを受け、いくつもの地域で再エネを活かしたまちづくりのための調査やスキーム作り、設備導入～事業化へと奔走しています。

#### 社会人(会社人?)の出だし

大学4年の夏、単純に東京に行きたくて研究室にパンフレットのあった東芝を希望し、いくつかの配属先候補から、府中工場に新設される水処理設計部門が面白そう、と入社。最初の仕事は上野動物園の白くまの池の浄化、皇居のお堀の藻対策、かずのこの着色排水のオゾン脱色等の実験や、工場の環境管理中に巣から落ちたヒナを保護し、お弁当のゆで卵を給餌したり(その写真が社内報に載ったり)のどかな新人時代でした。

やがて農業集落排水処



環境プラントのデモ車と全国行脚

理場(下水処理場の無い地域の生活排水処理場)向けプラント設計に携わるように。と言っても実際には機械科卒が担当、私は設計では珍しく客先回りでした。この設計～エンジニアリング時代の8年間で全ての都道府県に出向き、営業時代を含めると数百か所の自治体を訪問した経験が今もベースとなっています。

#### お客さんとの関係の原点

当時は皆、お客さんに対し最初の挨拶から帰るまで堅苦しい雰囲気+ペコペコお辞儀で、そうすると相手もペコペコ。お互いに見えない壁を作っているようでしたが、それが当たり前とっていました。

そんなある日、プラント完成検査で出張中に現場でお昼を迎えたのですが、人里離れていて食べる場所無し。すると役場のT係長が大きなビニール袋に入ったざく切りキャベツと大量のホルモンを持参。処理場の一室でカセットコンロに鉄板を載せてじゅうじゅう焼き始め、にこにこしながら「昼やから1本な。でも500(ml)やで。」と冷えた缶ビールをくれました。なんだ、お客さんって言っても自分達と同じ、夕方になれば飲みに行き(この時はお昼^^)、楽しいことが大好きな人たちだ、と当たり前のことに気づいた瞬間、自分の中での距離が変わりました。以来、客とメーカー、ではなく人と人の関係を築けると、担当から外れても付き合いは継続し、別の仕事を頂いたり良い縁を紹介し合ったり好循環が生まれています。T係長(現在は部長)とは今も交流あります。

#### もっとニーズに応えたい

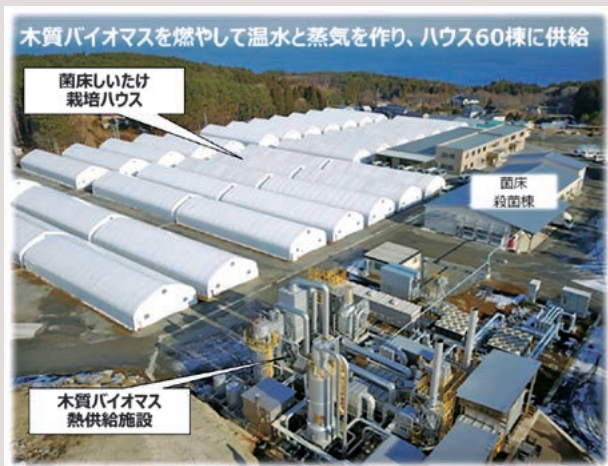
いろんな地域の方と話すうちに課題はボーダレスであることを知りました。例えば農業集落排水汚泥の肥料化の提案をすると、だったら食品残渣や畜産廃棄物も検討したい、発酵させて発電できないの?など。お客さんは

より広い範囲の課題の相談相手を求めている、私もそれに応えたい!と。しかし当時の所属部署は顧客は上下水道関係限定で、扱い製品以外を検討することも難しい。それで社内転職制度でスマートコミュニティ部門へ異動し、エネルギー全般やITなどにも携わるようになりました。

### お客さんと一緒に構築した木質バイオマス熱供給事業

そのころ、日本木材学会の事務局だった名大の福島教授（研究室の先輩、後に学会長も歴任）からの依頼で、当時開発していた木質原料ナノカーボンの講演をさせて頂きました。思えばこれがきっかけでこの業界にネットワークが出来、ついには岩手県久慈市の製材業の方と木質バイオマス熱供給会社まで創ってしまいました。社命でなく会社に必要性を説きながらの事業化で、そこが一番苦労した点でもありました（会社側も苦労したことでしょう^^;）。

震災時、電気も熱源も途絶えたことで地域資源によるエネルギー確保の必要性を痛感していた久慈市役所の方々と、農業・林業関係者も含め話し合い（昼も夜も）、何が出来るのか?と1年以上模索した結果、処理に困っていた樹皮（パーク）を原料として、蒸気（殺菌）・温水（暖房）をしいたけ栽培農家に供給する事業プラス、ボイラ排熱で原料を乾かして蓄熱し「乾燥チップ」として市営施設に供給する熱のオフライン的利用を編み出しました。バイオマス=発電ありきの発想を、エネルギーバランスと詳細な事業性試算に基づき熱利用100%としたのが大正解。さらに樹皮は使えん、という業界の常識を破り、余熱で水分を飛ばし風送するなど工夫した結果、問題無く稼働中。2015年の事業開始以来、脱化石資源および熱利用の先進事例という点で、経産省、農水省、新エネルギー財団、岩手県などから賞を頂き、視察も多く受入れています。



しいたけ栽培ハウスとバイオマス熱供給プラント

この取組みの面白さは、内容もさることながら皆でゼロから構築したところ。市、森林組合、製材、農家、銀行、メーカーと立場によって前提（常識）が違い、例えば空調の技術屋が試算した栽培ハウスでの必要な熱量より、きのこ屋さんで実際に使っていた灯油による熱のほうがかなり少ない。見直しても誤りを見つけられず社長さんに尋ねると「そりゃ菌床は発熱すっから当たり前だ」。菌の培養過程での発熱分、必要な熱が少なかったのでした。農業を知らない私たちと、再エネ利用が初めてのきのこ屋さんで、最初は噛み合わなかったのがだんだん相手の話が分かってきて信頼関係も生まれ、新たなアイデア・やりくりの発想が出てくるように。「やっと東芝さんの言いたいことが分かった。」の直後から、小西さんと名前で呼ばれるようになったのは忘れられません。

その後の会社再編でこんなにワクワクする取組みが出来なくなる危機となり、会社を移って継続を図ったというわけです。積水化学工業のエタノール化実証プラントも（最初からそのつもりではなかったのですが）、結果的に久慈市に建設され、現在試運転中です。そこから独立の経緯は冒頭のとおり。

### これから

森のめぐみとまちを繋ぎたい、と社名を付けましたが、今関わっているのはバイオマスだけでなく太陽熱・光、小水力、下水熱、廃棄物エネルギーなどこれまでやってきた全般。お客さんも県や市町村だけでなく商社、デベロッパー、医療福祉、ケミカル、再エネ事業者、土木、金融など様々。それぞれに業界の前提（常識）があり、それを知ることはとても面白いです。因みに案件は、全てがこれまで仕事でお付き合いのあった方たちからの紹介です。

「仕事は楽ではないが楽しむことは出来る」と誰かが言っていましたが、本当その通りだと思います。これからもより多くの人たちと感動を分かち合いながら、人と人の関係を大切にしていきたいです。



市役所、東芝、積水化学の人たちと

# コロナ禍の中での第5回名古屋大学同窓会サミットの開催

## *Holding the 5<sup>th</sup> Summit Meeting of NUAL Associations during the Covid-19 pandemic*

名古屋大学同窓会サミット議長  
名古屋大学全学同窓会副会長  
伊藤 義人



### 1. はじめに

コロナ禍が3年にもわたり続き、同窓会活動も大きな制約を受けています。名古屋大学同窓会サミットは、一昨年度は開催を見送り、昨年度は遠隔のオンライン開催となりました。今年度の第5回名古屋大学同窓会サミットは、コロナ禍の状況は厳しいものがありましたが、十分な対策を取り、令和4年7月16日（土）の16時から、名古屋大学本部1号館第1会議室での対面（15名）とオンライン（Zoom）のハイブリッドで開催されました（写真1）。

対面の会場においても、参加者に各自でパソコンを操作してもらい、自己紹介や発言の時に各自の顔を、参加者全員に見てもらえるような工夫をしました。

これまでと同様に、学部や研究科の部局同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長および事務局長（幹事長）などの各同窓会役員にご参加いただきました。私が、議長を務めました。全学同窓会から、齋藤副会長、西村副会長および木村代表幹事／副総長、大学からは松尾機構長、杉山総長、佐久間副総長にご参加いただきました。陪席を含めると総勢50名以上でした。名古屋大学には、現在33の同窓会がありますが、今回は、26の同窓会が参加しました。事前アンケートには、1つを除きすべての同窓

会から回答があり、事前に一覧表と図表に事務局でまとめてもらい議論の材料にしました。

最初に、齋藤副会長と杉山総長から、ご挨拶をいただきました（写真2, 3）。杉山総長からは、新任総長としての抱負などもお話しいただきました（写真3）。その後、前回から同窓会役員の参加者が半数近く代わっていましたので、簡単な自己紹介を全員で行いました。

### 2. アンケート項目についての意見交換

昨年度と類似の事前アンケートを行っており、前年度からの回答の変遷も含めて項目ごとに、私からアンケート結果を説明し、その後、意見交換を行いました（写真4）。

#### 1) 各同窓会における活動状況と今後の見通し

コロナ禍において、制約はありましたが、同窓会として、以下のような周年記念事業が報告されました。

- ・30周年を迎えた国際開発研究科が国際シンポジウムを開催
- ・医学部同窓会学友会が113回目の学友大会を開催予定、昨年は、創基150周年を記念して、豊田講堂で記念式典を実施。
- ・経済学部100周年を1年遅れで、ハイブリッドで式典を実施、300名の参加。
- ・機械航空系同窓会の第1回総会を1月に豊田講堂で実施。今後、東山会、伊吹会、高翔会と連携。

なお、Zoom アカウントなど、遠隔での活動を活発化するために、大学からのアカウント貸し出しなどを今後検討してもらうことになりました。

#### 2) with Corona における新たな連携・交流の可能性

アンケート結果では、3割の同窓会が、新たな連携・交流が難しいとしていましたが、これは役員などのマンパワーが足りないことなどの理由が挙がりました。社会貢献活動について、



写真1 対面参加者



写真2 齋藤副会長あいさつ



写真3 杉山総長あいさつ

アンケートに上がっていない活動もあるのではないかとこの意見がありました。一般参加を認めている講演会などももっと実施しているということでした。

### 3. 名古屋大学基金の現状報告と今後の連携について

木村副総長から、名古屋大学基金の現状などを用いて、説明がありました。200億円の当初目標は実現したという報告でした。個人の寄附が増加しているということでした。今後の目標設定については、現在検討中ようです。

### 4. その他

農学部同窓会セコイア会が、令和4年9月から、任意団体

から一般社団法人に移行することについて意見交換を行いました。活動の透明性と卒業生との連携強化を目的として、学外者から会長を選出する予定であることが説明されました。

### 5. おわりに

最後に、松尾機構長から閉会の挨拶がありました。最近の同窓会の活動状況に関する貴重な情報共有ができた名古屋大学同窓会サミットになりました。来年度の名古屋大学同窓会サミットは、コロナ禍が終息して、対面で実施可能となり、是非とも交流会（懇親会）も開催できることを祈念しております。



写真4 アンケート結果の説明

## 同窓会ニュース NUAL News

### 令和3年度第2回大学支援事業 採択事業

令和3年度第2回大学支援事業に8件の応募があり、審査の結果、表の4件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

#### 令和3年度第2回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
工学部 機械・航空宇宙工学科3年	飯田 怜央	スペースバルーンによる成層圏の放射線量およびオゾン測定
工学研究科 講師	レイト・エマニュエル	International Students Startup Support Project (留学生の起業支援プロジェクト)
法政国際教育協力研究センター (CALE) 講師	牧野 絵美	名古屋大学法政国際教育協力研究センター (CALE) 設立20周年記念シンポジウム
国際教育交流センター 特任准教授	高木 ひとみ	名古屋大学グローバルスチューデント・アンバサダープログラム

## 同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

The 1<sup>st</sup> Annual Public Seminar of Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Titled 'Adaptation and Recovery after A Year of COVID-19: Prospects and Challenges' (Co-Hosted by School of Social Innovation, Mae Fah Luang University)

申請代表者：CHENCHITTIKUL Veeraya  
(国際機構国際連携企画センター 特任助教)

バンコク事務所 副所長 / 全学同窓会タイ支部 秘書・メンバー)

2020年12月18日（金）に全学同窓会支援事業として採択された本学同窓会タイ支部主催イベント「The 1<sup>st</sup> Annual Public Seminar of Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Titled 'Adaptation and Recovery after A Year of COVID-19: Prospects and Challenges」を開催しました。当イベントはメーファールアン大学（タイ・チェンライ県）が共催し、本学バンコク事務所がイベント実施に協力しました。経済や観光に関わる政府機関の官僚、金融系シンクタンク、マスコミ及び学者や学生など、合計54名（うち6名はオンライン参加）の参加者を集めました。

基調講演者をはじめ、パネリストやモデレーターは全員名古屋大学の同窓生であり、それぞれの分野においてタイ国内有数の専門家として本イベントに参加しました。基調講演をおこなったProf. Dr. Kitti Limskul氏（経済学者・計量経済分野、本学経済学研究科修了）は、首相のアドバイザーや教育大臣補佐・財務大臣補佐の経験を持つ経済学者で、コロナ禍の影響によるタイ景気循環の変動について講演されました。円卓会議ではAsst. Prof. Dr. Rugphong Vongsaroj氏

（経済学者・観光分野、本学国際開発研究科修了）とDr. Ekachai Piensriwatchara, MD（タイ保健省健康増進局長、本学医学研究科医科学専攻医療行政コース修了）がコロナ禍対策を経済と医療の観点から意見を交わし、セミナー参加者からの質問にも回答しました。

また共催大学であるSchool of Innovation, Mae Fah Luang Universityの学生が、新型コロナウイルス感染症の対策で国境の閉鎖で苦しむ人々の窮状調査を基にした展示会を同時開催しました。

このイベントを通して、多方面の分野でタイ国内をリードする本学同窓生がコロナ禍対策にまつわる知識の普及を通して社会貢献することとなりました。



講演者、メーファールアン大学学長、タイ支部同窓会会長

## 名古屋大学・岐阜大学が連携した 実習型工学教育の挑戦

申請代表者：原 進  
(大学院工学研究科 教授)

申請者は平成29年度に実施された工学部改組に伴って登場した新規必修実習型教育「設計製図第3（飛行ロボットテーマ）」を立ち上げました。本テーマは、ピッチングとヨーイングのアクティブ制御が可能なグライダー模型を少人数チームでゼロから設計製作する内容であり、材料力学、流体力学、機械力学、制御工学など機械航空工学の基礎理論を融合させて質の高いものづくりを学びます。授業アンケートでは7割の学生が必修科目として継続すべきと回答するなど好評です。一方、岐阜大学川添博光特任教授、伊藤和晃教授らが申請者からノウハウを得て同様の授業「自律滑空機の設計製



会場の様子



東海クライマックスシリーズで交流する名大・岐大の参加学生

作実習」を令和2年度から岐阜大学で始めました。この授業も好評で、マスコミ取材も受けてきました。東海国立大学機構発足を契機として、両大学が連携した実習型工学教育への挑戦に取り組むことを考え、今般、令和2年度第2回名古屋大学全学同窓会大学支援事業のもと、名大・岐大の優秀な飛行ロボットを集めた競技会「東海クライマックスシリーズ」を2021年9月29日に岐阜メモリアルセンターで開催しました。競技会という形態を取ることで、両大学学生の機械航空工学やものづくりに対するモチベーションを引き上げる他、両大学の授業の特徴を明確にしてそれぞれの授業改善につなげることで、東海地区全体のものづくり人材育成力の向上に貢献します。

並行して、定常的に行われる体験型教育においても名大と岐大を結び、両大学の学生が一緒に実験を行っている感覚

が得られるようなシステムの導入にも挑戦しました。具体的には振動制御工学に関するテーマであり、同一実験装置を名大と岐大に設置すると同時にインターネットで結び、両大学学生に同一応答を提示したり、片方が提案する設定をもう一方にデモンストレーションできる実験システムを目指し、前述の支援事業により試作機を作製しました。2022年7月22日に、実際の授業での実施を目指して準備しています。これまで両大学をインターネットで結んだ講義形式の授業はありましたが、実習型教育の同時開催は実現できておらず、申請者らの導入するシステムにより、東海機構が有する教育ポテンシャルの幅を大きく広げることができます。さらに、離れた場所で同時に同一の実習型教育を受けられるシステムの確立はコロナ禍で困難になった実習型教育にニューノーマルな方法を提供することにもつながります。



東海クライマックスシリーズでの競技の様子

## ■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。  
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

### ○関東支部

#### 1) 全学同窓会関東支部

##### ・関東支部令和4年度講演・交流会

開催日：2023年2月19日（日） 14：30～18：30（予定）

場 所：学生会館 202号室（東京都千代田区神田錦町）

1時間の講演会の後、交流会を行います。

\*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

なお、新型コロナの感染状況によっては中止とさせていただきます。

連絡先：関東支部事務局長 岸 徹

E-mail：kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

#### 2) 東京キタン会

##### ・秋の催事

秋の催事として東京キタン会交流会を11月に予定しておりましたが、コロナ禍の状況を踏まえ中止と致します。

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail：info@tokyo-kitankai.com

##### ・東京キタンゴルフ会コンペの開催

東京キタン会メンバーの有志によるゴルフ会です。2022年度は下の日程での開催を予定しています（昨年度同様新型コロナの状況によっては中止と致します）。

開催日：2022年11月8日（火）

場 所：東京国際ゴルフ倶楽部（東京都町田市）

連絡先：東京キタンゴルフ会幹事 高井祥臣

E-mail：yoshiomit8@yahoo.co.jp

### ○岐阜支部

#### 全学同窓会岐阜支部2022年度総会・講演会・交流会

日 時：2022年12月11日（日） 14：00～16：30（予定）

場 所：じゅうろくプラザ 大会議室（JR 岐阜駅隣）

URL：http://plaza-gifu.jp/ オンライン同時開催予定

講 師：森島 恒雄（愛知医科大学客員教授、岡山大学名誉教授）

題 目：「新型コロナを振り返り、未来を切り開く」

事前申込先：<https://forms.gle/nT1LzcKjADMPHbMy5>

協力金：（一口）1,000円

連絡先：岐阜支部事務局 E-mail：2019nugaa@gmail.com

全学同窓会 HP では行事案内等を掲載しています。また、HP では本ニュースレター「NUAL」のバックナンバーも掲載しています。ぜひご覧ください。

# 事務局からのお知らせ From the NUAL Office

## ●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

## ○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

## ○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

## ●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) [sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp)

## 「名古屋大学カード」の入会のご案内

### ～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

## ◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**19,000名**を超えています。



**年会費永年無料!** 家族会員様も1名様に限り無料。  
**ポイントがたまる!** 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

### 入会方法について

#### ① WEBからのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください  
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

#### ② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください  
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

●カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

●カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

## 編集後記

新総長の杉山先生へのインタビューでは、先生の名古屋大学と同窓会に対する思いを熱心にお話いただき、大変読み応えのある内容となりました。同窓生の皆様には、設立20周年を迎えた本同窓会へのますますのご支援を頂きますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

**NUAL** Newsletter No.38 令和4(2022)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

**NUAL 名古屋大学全学同窓会**

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail [nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会

